

調査報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	16
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	4
5. 人材の育成と支援	3
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	3
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支	2
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメン	7
1. 一人ひとりの把握	2
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の	2
見直し	
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	15
1. その人らしい暮らしの支援	13
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	41

訪問調査日	平成 21年 7月 1日
調査実施の時間	開始 10時00分 ~ 終了 16時00分
訪問先事業所名 (都道府県)	グループホームひまわりの家 ————— (新潟県)
評価調査員の氏名	氏名 <u>山崎 由美</u>
	氏名 <u>星野 久美子</u>
事業所側対応者	職名 <u>管理者</u>
	氏名 <u>高橋 一幸</u> ヒアリングを行った職員数 (4)人

項目番号について

外部評価は41項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入します。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけます。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容について記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 調査報告概要表

評価確定日 平成 21年7月31日

【評価実施概要】

事業所番号	1570102192
法人名	有限会社 在宅福祉センターひまわり
事業所名	グループホームひまわりの家
所在地 (電話番号)	新潟市東区下山3-1407-1 (電話)025-272-2701
評価機関名	特定非営利活動法人 ウェルフェア普及協会
所在地	新潟県三条市東三条1丁目6番14号
訪問調査日	平成21年7月1日

【情報提供票より】(21年6月3日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 14年 4月 12日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤 12人, 非常勤 2人, 常勤換算	10.6人

(2)建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	2階建ての	1階 ~	2階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	約20,000 円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	300 円	昼食 550 円
	夕食	450 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

(4)利用者の概要(6月3日現在)

利用者人数	18名	男性	2名	女性	16名	
要介護1	3名	要介護2	8名			
要介護3	6名	要介護4	1名			
要介護5	名	要支援2	名			
年齢	平均	85.3 歳	最低	73 歳	最高	94 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	ときわ診療所 梶川歯科医院 浜松病院
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

平成14年、割烹料理店の経営者が「地域福祉の推進、社会貢献機会の確保」のため開所した県内2つの介護サービスの一つである。新潟空港に程近い、住宅や商店が建ち並ぶ国道に面している。以前割烹料理店であった鉄筋2階建てを改修した2ユニットのホームである。段差や階段は手摺りやスロープで工夫したり、広いフロアや廊下は生花や額に作品が飾られ旅館のような趣がある。運営者はじめ職員は「利用者の気持ちに添い最大限のサービスを提供すること」を第一に考えており、終の棲家としての看取り支援に早くから力を入れ実績を重ねる等、常に現状に甘んぜずより良いホームを目指し取り組んでいる事業所である。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価結果より、全職員で話し合い、マニュアルの見直しや災害時に備えた地域住民への声かけ、洗剤・消毒薬の保管場所の改善等、できることから具体的改善に取り組んでいる。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	開所から7年目となり、評価を気づきの機会として全職員が認識している。個々に項目を評価したものを話し合い、管理者がまとめている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	2ヶ月に1回、利用者、家族、住民代表、地域包括支援センター所長、他グループホーム管理者のメンバーで開催している。メンバーの欠席やホームの事業・活動報告が主となり、意見を話し合いサービス向上に活かすことが困難となっている。運営推進会議の意義やあり方について模索しているところである。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	外部の相談受付窓口を明示し、投書箱を設置して意見を表わせる機会を設けているが、面会時や家族会で直接話される方が多い。日頃より職員から声かけし、意見や苦情には速やかに改善に向けた対応に心がけ、運営に反映させている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	散歩等で挨拶を交わしたり、近隣の園児の訪問や中学生の職場体験、大学の福祉・看護科の実習生、ボランティア等を受け入れている。地域の行事が少ない中で祭りへの参加を計画する等、地域と交流することに努めている。地域の一員として、気軽に行き来できる交流が今後の課題である。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスとしての3つの事業所独自の(運営)理念をつくりあげている。また毎年度事業所全体の目標を掲げており、今年度は「観て、聴いて、親身になって接する」を管理者が掲げ取り組んでいる。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	運営者は「利用者の気持ちに添い最大限のサービスを提供すること」がホームの一番の役割と話し、全職員で取り組んでいるが、理念との関連やあり方、それらを共有・日々の取り組みに繋げることを模索している。		理念は実践に活かされてこそ意味があるといえる。実践が理念に基づいたものになるように、日々の中で法人全体が同じ方向を意識しながら話し合う等の更なる取り組みが望まれる。
2-2	3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	玄関に理念を掲示したり、パンフレットや月1回発行の広報誌を活用し、契約時や運営推進会議、家族会等で理解してもらえよう取り組んでいる。以前、割烹料理店であったホームは、開所7年目となり地元で認知されてきている。		
2. 地域との支えあい					
		地域とのつきあい			
3	5	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	散歩等で挨拶を交わしたり、近隣の園児の訪問や中学生の職場体験、大学の福祉・看護科の実習生、ボランティア等を受け入れている。地域の行事が少ない中で祭りへの参加を計画する等、地域と交流することに努めている。気軽に行き来できる交流が今後の課題である。		地域密着型サービスとして、理念にある「地域福祉の推進・社会貢献機会の確保」の実現に向け、ホームを開放し、ホーム行事やお茶の間・勉強会等を行うことで、日常的に行き来し、地域の一員としての関係を構築する更なる取り組みに期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
		評価の意義の理解と活用			
4	7	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は意義を説明し、全職員で自己評価票を作成した。職員は日々の業務を見直す機会と捉えており、意義を理解している。先回の評価結果はカンファレンス等で全職員で話し合い、改善できることから少しずつ取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催しているが、メンバーの欠席や、ホームの事業・活動報告が主となり、意見を話し合いサービス向上に活かすことが困難となっている。運営推進会議の意義やあり方について模索している。		地域の理解と支援を得るための貴重な機会とし、報告にとどまらず、話し合いを通じて意見をもらい、サービスの向上に具体的に活かしていくことが望ましい。
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事ある毎に、区の担当職員や地域包括支援センター職員と連絡を取り合い、情報交換したり助言を受けている。「認知症の実践者研修」には毎年参加する等、ともにサービスの質の向上に取り組んでいる。		
6-2	11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	業務マニュアルを整備し、ユニット毎の会議や勉強会で学ぶ機会を設けている。日々の業務で虐待に値する行為が見過ごされることがないように、職員間で注意を払い、防止に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月請求書と共に、広報誌や居室担当職員による手紙を郵送し、暮らしぶりや健康状態、職員(異動)について伝えている。その都度、面会時、電話等で個々にあわせた報告をしている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	外部の苦情相談窓口を明示し、投書箱を設置して意見を表せる機会を設けているが、面会時や家族会で直接話される方が多い。日頃より職員から声かけし、意見や苦情には速やかに改善に向けた対応に心がけ、運営に反映させている。		
8-2	16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年1回の全体会議や毎月のユニットカンファレンス、職長会議にて意見を聞く機会を設けている。運営者は毎日来所し、管理者とともに日頃のコミュニケーションの中で、職員と意見を言い合える良好な関係ができており、業務改善等の運営に反映させている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は馴染みの関係が大切と考え、異動・離職を最小限に抑えている。代わる場合は利用者きちんと言明し、職員間の引継ぎを徹底する等、ダメージを防ぐ配慮をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
9-2	18-2	マニュアルの整備 サービス水準確保のための各種マニュアルが整備され、職員に周知されている。また、マニュアルの見直しが適宜行われている。	各種マニュアルを整備している。カンファレンス、勉強会等で活用し、職員の周知・徹底に努めている。その都度ホームの実情に即し、業務や感染症予防等マニュアルを見直している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は半期に一度、面談により個別目標を設定し指導しているが、外部研修は職員の意思に任せており、参加が少ないのが実情である。ユニット毎に年間計画による毎月の勉強会を実施している。格差を無くし、職員全体で共通した認識で技術・知識の水準確保と向上に繋げることが今後の課題である。		理念にある「高い専門性」を追求し、法人として経験年数に合わせたプログラムづくりを行うことや、個人目標・面談を活かし、資格取得を含めた内外の研修を、段階的・個別的にすすめ、法人全体のスキル・サービスの水準確保と向上につなげることを期待したい。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者同士の交流はあるが職員の交流は少ない。自己の業務の振り返りやサービスの質の向上のために交流の必要性を感じており、近く開所する近隣グループホームとの交流を考慮している。		同業者とのネットワークづくりや、情報交換や勉強会・相互訪問等は事業所や地域全体としてのサービス向上につながる重要な取り組みといえる。様々な交流の機会を設け、サービスの質の向上へつなげることを期待したい。
11-2	21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	運営者、管理者と職員は日頃のコミュニケーションで声をかけ、面談で話を聞き、良好な関係ができています。有休取得を推奨し、親睦会を行う等、環境づくりに取り組んでいる。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービス利用前に、事前訪問や面談にて、自宅の間取り・生活時間の把握に特に注意し、見学を勧め、なるべく自宅と同じ生活・環境で馴染めるよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	学ぶ姿勢で一緒に生活する中で、掃除・料理の仕方を学び、喜怒哀楽を共感することを大切に信頼関係を築き、支えあう関係を築いている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
13-2	28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	事ある毎に情報交換し、面会や行事参加等を積極的に働きかけ、喜怒哀楽を共有することで、一緒に本人を支えていく関係を築いている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	事前訪問や日々の関わりの中で、本人・家族の思いや意向の把握に努め、ユニット毎のカンファレンス、ケース検討会にて本人本位に検討している。記録様式をMDSから、センター方式の一部を取り入れ「思い」の記入ができるようにしている。		
14-2	34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族・関係者より情報を得て、一日の生活時間表を作成し、これまでの暮らしの細かな把握に努めている。基本情報シートは毎年情報を整理し書き直し、支援に繋げられるようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	居室担当者が中心となり情報をまとめ、ユニット毎のケース検討会にて本人、家族の思いを反映した計画を話し合っている。計画作成担当者がそれらをまとめ、ケアシートから本人らしい介護計画を作成している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月をめやすに見直している。ケース検討会で評価し、変化を見逃さずに現状に即した新たな計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	運営者の「本人・家族の思いに最大限に応えたい」との思いで、家族の宿泊、家族結婚式の参加、入院先への頻回な訪問、通院介助等、多機能性を活かし柔軟な支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時、本人・家族に確認し、希望のかかりつけ医へ受診し、適切な医療を受けられるよう支援している。協力医と訪問看護ステーションとは緊急時、24時間の医療連携体制ができています。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「住み慣れた場所や顔馴染みの利用者・職員の中で自然な死を迎えられる」ことを目的に、重度化・看取り介護の指針と体制づくりを構築し、開所から数件の看取りを経験している。入居時や状態に合わせ本人・家族・医師等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有し取り組んでいる。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	尊厳を持って接しており、言葉かけや対応に努めている。個人情報についてはマニュアルに沿って対応し、カンファレンス時の勉強会等で学ぶ機会を設けプライバシーを確保している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの希望やペースを大事にし、起床時間・食事場所・就寝時間等配慮し利用者に共感し、個別性のある支援に努めている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みや力を活かしながら、毎日献立づくり・食材の買い物等、職員と一緒に準備、食事、後片付けをしている。行事委員が計画し、外食等利用者の希望に沿った食事は楽しみなものとなっている。		
22-2	56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	チェック表にて一人ひとりの排泄パターンを把握している。日中はできるだけおむつを使用せず、トイレでの排泄を声かけし、自立に向け気持ちよく排泄できるよう支援している。トイレの戸を改装し、出入りし易いよう工夫している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望やタイミングに合わせ、ほぼ毎日の入浴を支援している。入浴剤使用や菖蒲・ゆず等季節風呂にしたり、シャンプーボトルやスポンジ等グッズを見直すことで、入浴を楽しめるよう工夫している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	調理、ゴミ捨て、園芸等一人ひとりの役割を生活の中に入れる「生活リハビリ」として考え支援を行っている。希望により行事委員が計画する日帰り温泉、夕食等の行事は楽しみごと、気晴らしとなっている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近隣の神社・公園への散歩や買い物等、日常的にできるだけ戸外に出かけられるよう支援している。馴染みの場所や行事にて普段行けないところへの外出も進めている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
25-2	65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルを作成し、禁止となる具体的な行為について、カンファレンスや勉強会等で正しい理解に努めている。職員間で共通した認識で注意し合い、拘束しないケアに取り組んでいる。		
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	全職員が弊害を理解し、日中は玄関に鍵をかけないケアに取り組んでいる。2階ユニットの入り口は格子戸に鈴を付け工夫している。一人で外に出られる方には、所在確認や見守りを徹底し、一緒に外出する等対応している。		
26-2	69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハット・事故報告書を活用し、速やかな対応に心がけている。一人ひとりに応じた防止策をケース検討会で話し合い、事故防止委員会が全体の検討を行う等、事故防止に取り組んでいる。		
26-3	70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	利用者の急変時は訪問看護や協力医と24時間連携が取れる体制となっている。しかし、応急手当や初期対応を全職員が定期的に学ぶ機会がない。		急変や事故は昼夜を問わずに起こる。兆しを見逃さず、実際場面で慌てずに確実かつ適切な行動がとれるよう、全職員が定期的に学ぶ機会を設け対応できる取り組みが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、昼夜想定避難訓練を実施している。5日分の食料等備蓄や防災セットを各ユニットで準備している。自治会長や近隣の消防団に声かけし、協力を得られるよう働きかけている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの嗜好や季節、栄養バランスに配慮した献立を作成し、協力医・看護師から助言を受けている。体調や摂取量をチェックし、食形態や量を調整したり、ポットを設置し、自由に水分補給できるよう支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	1階の広い畳のフロアにはこたつを設置したり、2階には畳コーナーやソファを設置し、思い思いに居心地よく過ごせるような工夫をしている。委員会を中心に今年度は建物周りの園芸に力を入れることを計画している。前回評価の結果より、換気を徹底し、トイレから玄関への消臭対策に努めている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドとチェストは備え付けのものであるが、本人・家族と相談し、馴染みのものを持参してもらい、その人らしい生活感のある居室を工夫している。		